

平成25年度第1回文学館協議会次第

日時 平成25年7月19日(金) 14時～

会場 県立文学館 研修室

開会

- 1 委嘱状交付
- 2 県教育次長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 館長あいさつ
- 5 議事
 - (1) 平成24年度事業報告等について
 - (2) 平成25年度事業等について
 - (3) 平成26年度に向けて
 - (4) その他

閉会

館内視察

山梨県文学館協議会資料

平成25年7月19日(金)

山梨県立文学館

目次	ページ
<u>山梨県文学館協議会名簿</u>	1
<u>山梨県附属機関の設置に関する条例 他</u>	2
<u>山梨県文学館組織図</u>	4
<u>指定管理者組織図</u>	5
<u>山梨県立文学館活動報告(概要)</u>	6
<u>施設利用状況</u>	7
<u>観覧者数の推移</u>	8
<u>企画展等一覧</u>	10
<u>教育普及事業について</u>	12
<u>資料情報課事業一覧</u>	20
<u>指定管理者活動報告</u>	23
<u>平成26年度に向けて</u>	25

山梨県文学館協議会委員名簿

任期：平成23年9月29日～平成25年9月28日

区分	氏名	役職	出身分野(勤務先等)
委嘱	草川 公仁	縣市町村教育委員会連合会代表	社会教育関係 (笛吹市教育委員長)
"	櫻井 をさみ	県社会教育委員代表	社会教育関係 (山梨県社会教育委員)
"	蔦木 雅清	山梨文芸協会事務局次長	学識経験者 (山梨文芸協会事務局次長)
"	向山 文人	報道関係	学識経験者 (山梨日日新聞社取締役・論説委員長)
"	植松 裕二	報道関係	学識経験者 (テレビ山梨放送本部・報道制作局長)
"	鈴木 弘亮	報道関係	学識経験者 (NHK甲府放送局副局長)
"	池田 尚隆	山梨大学教授	学識経験者
"	渡辺 久壽	山梨英和大学教授	学識経験者
"	数野 強	元山梨県教育長	学識経験者
"	上野 美穂子	公募委員	家庭教育関係者 (主婦)
"	清水 章子	公募委員	家庭教育関係者 (主婦)
"	乙黒 幸江	前中央市立玉穂生涯学習館館長	家庭教育関係者
任命	佐藤 喜美子	県公立小中学校長会代表	学校教育関係 (笛吹市立春日居中学校長)
"	清水 澄	県高等学校長協会代表	学校教育関係 (上野原高校校長)

○山梨県附属機関の設置に関する条例（抜粋）

（趣旨）

第一条 この条例は、法令又は他の条例に別に定めのあるものを除くほか、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第百三十八条の四第三項に規定する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

（附属機関の設置及び担当事務）

第二条 知事の附属機関として、次に掲げる機関を設置する。

（略）

2 教育委員会の附属機関として、次に掲げる機関を設置する。

（略）

山梨県立美術館協議会

山梨県考古博物館協議会

山梨県地方産業教育審議会

山梨県文学館協議会

（組織）

第四条 附属機関は、別表第一、別表第二及び別表第三の委員の定数欄に掲げる数の委員で組織する。

2 委員は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の要件欄に掲げる者のうちから、知事（教育委員会の附属機関にあっては、教育委員会。以下同じ。）が任命し、又は委嘱する。

3 委員の任期は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の任期欄に掲げるとおりとする。（会長等）

第五条 附属機関に、規則で定めるところにより、会長又は委員長（以下「会長」と総称する。）及び副会長又は副委員長（以下「副会長」と総称する。）を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、附属機関を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第六条 附属機関の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、規則で定める場合を除くほか、委員の二分の一以上が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委任）

第八条 この条例に定めるもののほか、附属機関の担当事務、組織及び運営等に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第一（第二条、第四条関係）

二 教育委員会の附属機関

附属機関	担当事務	委員の定数	委員の要件	委員の任期
山梨県立美術館協議会	博物館法(昭和二十六年法律第百八十五号)第二十条第二項の規定による山梨県立美術館の運営に関する事項の調査審議及び意見の具申に関する事務	十五人以内	一 学校教育の関係者 二 社会教育の関係者 三 家庭教育の向上に資する活動を行う者 四 学識経験のある者	二年
山梨県文学館協議会	博物館法第二十条第二項の規定による山梨県立文学館の運営に関する事項の調査審議及び意見の具申に関する事務			

○山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則（抜粋）

（趣旨）

第一条 この規則は、山梨県附属機関の設置に関する条例（昭和六十年山梨県条例第三号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

（補欠委員の任期）

第三条 委員に欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（平六教委規則二・旧第二条線下）

（会長及び副会長）

第四条 条例第五条第一項の規定により、附属機関に会長及び副会長一人を置く。

（定足数の特例）

第五条 条例第六条第二項の規則で定める場合は、次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議について、同表の定足数欄に掲げる数の委員が出席しなければ開くことができない場合とする。

附属機関	定足数
山梨県高等学校入学者選抜制度審議会	過半数
山梨県へき地等教育振興審議会	過半数
山梨県立美術館協議会	過半数
山梨県考古博物館協議会	過半数
山梨県文学館協議会	過半数
山梨県地方産業教育審議会	過半数
山梨県スポーツ振興審議会	過半数

（定例会及び臨時会）

第十二条 次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議は、定例会及び臨時会とし、定例会の開催回数は、同表の開催回数欄に掲げるとおりとする。

附属機関	開催回数
山梨県立美術館協議会	年二回
山梨県考古博物館協議会	年二回
山梨県文学館協議会	年二回

2 前項に規定する臨時会は、必要に応じて開催する。

（昭六一教委規則一・旧第十一条線下、平元教委規則五・一部改正）

（庶務）

第十三条 附属機関の庶務は、次の表の所属欄に掲げる所属において処理する。

附属機関	所属
山梨県図書館協議会	図書館
山梨県高等学校入学者選抜制度審議会	高校教育課
山梨県へき地等教育振興審議会	義務教育課
山梨県特別支援教育振興審議会	高校教育課
山梨県立美術館協議会	美術館
山梨県考古博物館協議会	考古博物館
山梨県文学館協議会	文学館
山梨県地方産業教育審議会	高校教育課
山梨県スポーツ振興審議会	スポーツ健康課

（昭六一教委規則一・旧第十二条線下・一部改正、昭六三教委規則七・平元教委規則五・平四教委規則三・平六教委規則二・平八教委規則四・平九教委規則八・平一九教委規則三・一部改正）

（委任）

第十四条 この規則に定めるもののほか、附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が当該附属機関に諮って定める。

○博物館法（抜粋）

（博物館協議会）

第二十条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

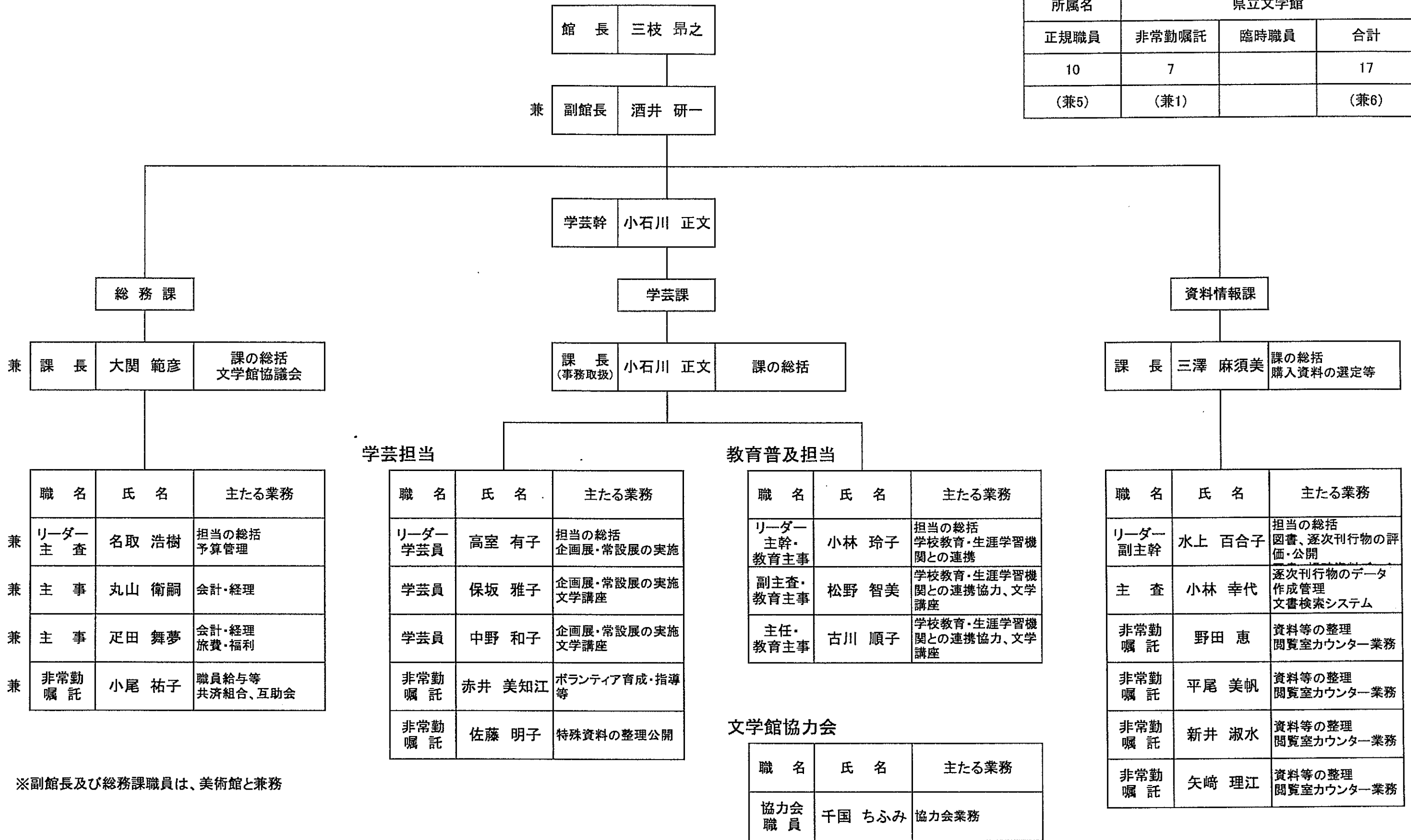
2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第二十一条 博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第二十二条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

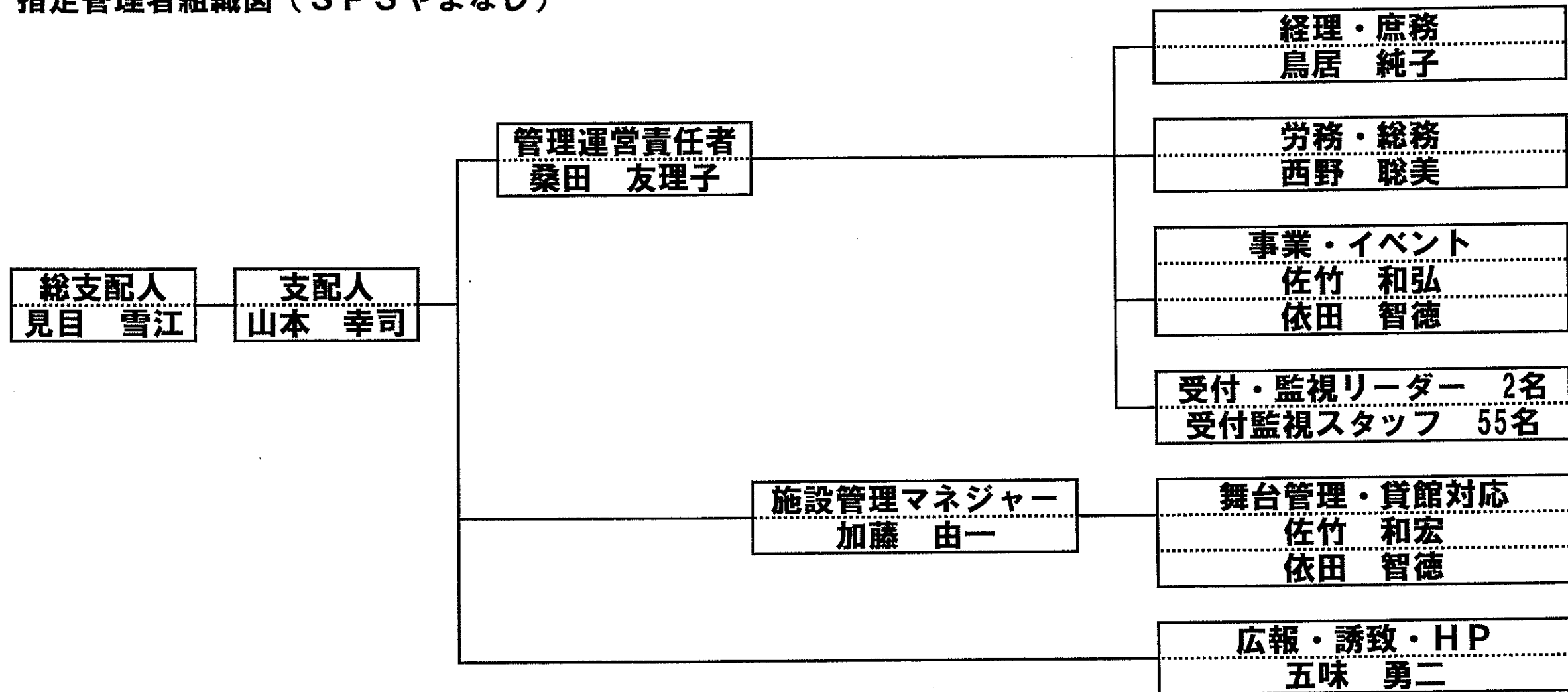
文学館組織図

所属名	県立文学館		
正規職員	非常勤嘱託	臨時職員	合計
10	7		17
(兼5)	(兼1)		(兼6)



※副館長及び総務課職員は、美術館と兼務

指定管理者組織図 (SPSやまなし)



スタッフ9名 + 受付監視 57名 = 66名

山梨県立文学館活動報告（概要）

本館に求められるもの

県民の価値感の多様化・余暇活動の関心の高まりとともに、心の豊かさや生きがいを求めて、文化活動に対する質の向上やニーズも一段と高く、幅広いものとなってきている。このような中、文学に対する知識・教養の向上をはかり、県民文化の発展向上に寄与することを目的として設置されている山梨県立文学館には、次のものが求められている。

【展示／見る】文学史に残る作家と作品を紹介する企画展や特設展と、山梨県出身、ゆかりの文学者を展示する常設展示の一層の充実をはかる。

【教育普及／学ぶ】生涯学習、教育課程における学習など、多様な学習機会の提供、本県における文学、創作活動の充実、発展、その場の提供。

【資料情報／収集・保存・公開】山梨県にゆかりのある作家の作品（資料）を収集保存し、活用する。

【付加価値・魅力／たのしむ】本来の文学館機能に加え、付加価値を充実させ、より魅力ある「憩いの場」の創造と提供。

○平成25年度は、山梨県立文学館のあるべき姿や求められる姿を考究すべく制定された「基本理念」（平成25年4月1日制定）を自覚し実践するとともに、本県を会場に全国初の通年開催される「国民文化祭」とも連動させ、さらに魅力ある展示を実施、解説に力を入れるなど積極的な情報発信を行っていく。

平成24年度の活動

【展示／見る】〈魅力ある展示へ〉

常に新しい資料の常設展と魅力あるテーマの企画展を展開

〈常設展〉年四回春夏秋冬展示替えに加え、次の資料を期間限定公開

- ①井伏鱒二「本日休診」原稿 ②芥川龍之介回覧雑誌 ③太宰治「陰火」原稿 ④芥川龍之介「河童」草稿 ⑤伊藤左千夫他アララギ派歌人短冊貼り交ぜ屏風 ⑥鏑木清方「大黒屋の美登利」軸 ⑦森鷗外「灰燼」原稿 ⑧室生犀星「かげろふの日記遺文」原稿

第1室 山梨の文学風土（甲斐のうた・甲州の近世文学） 樋口一葉（朗読コーナー）

第2室 山梨出身ゆかりの文学者たち
井伏鱒二・太宰治・檀一雄・山本周五郎・深沢七郎・山崎方代等 21作家のコーナー

第3室 芥川龍之介 生涯（誕生・少年時代・作家として・晩年）・書画・俳句・山梨との関わり朗読コーナー

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室 生涯と作品

第5室 前期(9月まで) 小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡
後期(3月まで) 詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

〈企画展〉企画展「石川啄木 愛と悲しみの歌」4月～6月

〈夏休み展示〉特設展「フランダースの犬 愛と友情の物語」7月～8月

〈秋の特設展〉「歿後50年 飯田蛇笏展」9月～11月

〈富士の国やまなし国文祭記念事業「文学館至宝展 よみがえる文豪の素顔」(年度末) 1月～3月

【教育普及／学ぶ・創る】〈文学に親しみ、文学をたのしみ、考える機会の提供〉

社会教育、学校教育と連携をはかりつつ、年間を通じて、文学に触れ、味わい、楽しみ、考えることのできる機会を提供する。

○入門のための文学創作教室実施〈7月 小説・2月 短歌教室〉

〈活動内容〉

春の企画展、秋の特設展関連講演会・朗読公演会・鼎談・講座・教師のための学習会 文学散歩2回
子ども映画会・ワークショップ 年間文学講座 名作映画鑑賞会 読書会（協力会）お話の森朗読会
チャレンジ文学館 夏休みチャレンジ文学館 ジュニアインターンシップ

文学解説、各種講師派遣事業 館長トーク 移動文学館 ㊦リーディングシアター2012 in 文学館
〈第21回やまなし文学賞〉小説・研究評論2部門で実施予定 11月末締め切り H25年3月初め発表

【資料情報／収集・保存・公開】〈資料の保存と公開〉

・資料を手に取り文学者を身近に感じることができる機会の提供

○閲覧室資料紹介・石川啄木の世界・みんなで読もう世界の名作・飯田蛇笏一歿後50年一・やまなし文学散歩

○文学者の誕生日にちなんだ資料紹介・木々高太郎・太宰治・飯田龍太・辻邦生・山崎方代・檀一雄・芥川龍之介

○書庫見学 6/16:41人 11/20(県民の日):71人

【付加価値魅力／楽しむ】〈魅力ある文学館〉

協力会員による企画展・常設展の解説ボランティアの育成と実施

芸術の森公園アートツアー（SPSやまなし自主事業）ミュージアム甲斐in（会員）募集事業

JR・県観光推進機構との連携等による積極的な広報

平成25年度の活動

【展示／見る】〈魅力ある展示へ〉

常に新しい資料の常設展と魅力あるテーマの企画展を展開

〈常設展〉年四回春夏秋冬展示替えに加え、次の資料を期間限定公開また夏と冬は特別コーナーを設置

- ①長塚節 三井甲之宛書簡 ②二葉亭四迷 内田魯庵宛書簡 ③窪田空穂短歌軸装 ④足立源一郎 油彩・スケッチ画 ・夏の常設展 村岡花子生誕120年の展示 ・冬の常設展 深沢七郎 生誕100年

第1室 山梨の文学風土（甲斐のうた・甲州の近世文学） 樋口一葉（朗読コーナー）

第2室 山梨出身ゆかりの文学者たち
井伏鱒二・太宰治・檀一雄・山本周五郎・深沢七郎・山崎方代等 21作家のコーナー

第3室 芥川龍之介 生涯（誕生・少年時代・作家として・晩年）・書画・俳句・山梨との関わり朗読コーナー

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室 生涯と作品

第5室 前期(9月まで) 小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡
後期(3月まで) 詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

〈富士の国やまなし国文祭記念事業〉 特設展「富士山と文学」4月～7月

〈夏休み展示〉特設展「あそぶぜ！かいけつゾロリのおたのしみ大さくせん～原ゆたかとゾロリのなかまたち」7月～8月

〈秋の企画展〉〈富士の国やまなし国文祭記念事業〉「与謝野晶子展 われも黄金の釘一つ打つ」9～11月

〈新収蔵品展〉1月～3月

【教育普及／学ぶ・創る】〈文学に親しみ、文学をたのしみ、考える機会の提供〉

社会教育、学校教育と連携をはかりつつ、年間を通じて、文学に触れ、味わい、楽しみ、考えることのできる機会を提供する。

○入門のための文学創作教室〈7月 講演会・12月 エッセイ教室（高校生）・2月 エッセイ教室（一般）〉

〈活動内容〉

春の特設展、秋の企画展関連講演会・朗読公演会・講演会・講座・教師のための学習会 文学散歩2回（一般）、高校生文学散歩（1回）、子ども映画会・ワークショップ 年間文学講座 名作映画鑑賞会 読書会（協力会）お話の森朗読会 チャレンジ文学館 夏休みチャレンジ文学館 ジュニアインターンシップ 文学解説 各種講師派遣事業 移動文学館 リーディングシアター2013 in 文学館

〈第22回やまなし文学賞〉小説・研究評論2部門で実施予定 11月末締め切り H26年3月初め発表

【資料情報／収集・保存・公開】〈資料の保存と公開〉

・資料を手に取り文学者を身近に感じることができる機会の提供

○閲覧室資料紹介・富士をめぐる文学・ぼくのヒーローわたしのヒーロー・与謝野晶子の世界・装幀の美

○文学者の誕生日にちなんだ資料紹介・飯田蛇笏・樋口一葉・太宰治・飯田龍太・辻邦生・山崎方代・芥川龍之介

○書庫見学 6/15(土):27人 11/20(水・県民の日) 午前・午後各1回

【付加価値魅力／楽しむ】〈魅力ある文学館〉

協力会員による企画展・常設展の解説ボランティアの育成と実施

芸術の森公園アートツアー（SPSやまなし自主事業）ミュージアム甲斐in（会員）募集事業

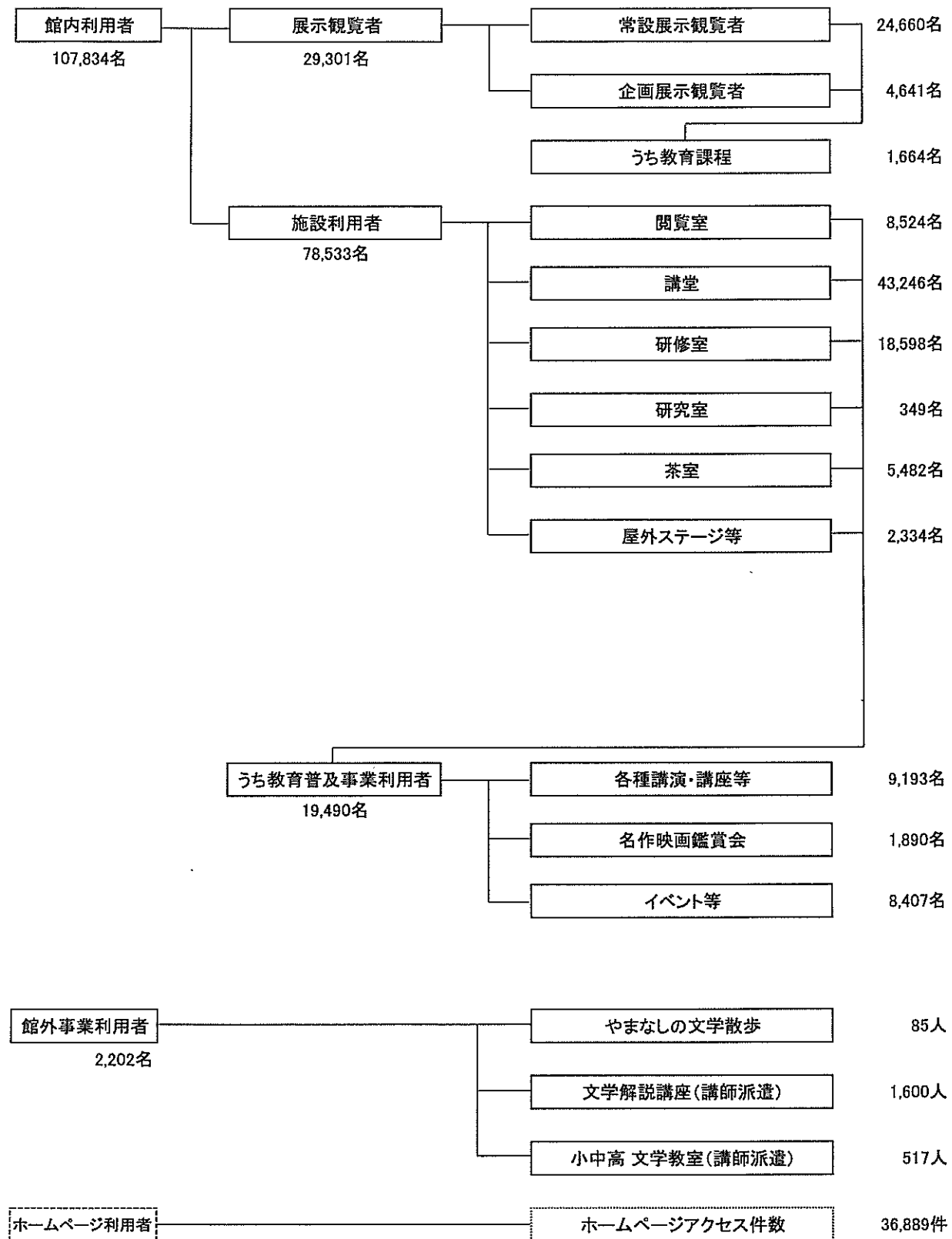
JR・県観光推進機構との連携等による積極的な広報

文学館における「利用者」の状況

H25. 3. 31現在 県立文学館

○文学館の利用者とは、文学館の施設、提供するサービスを利用した者および文学館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。

○ここに示す利用者数は、平成25年3月31日までの実績である。



文学館の観覧者数の推移

年度	開館日数	常設展観覧者数	企画展観覧者数	合計
H1	34	10,008	42,544	52,552
2	298	79,124	20,233	99,357
3	296	59,616	22,059	81,675
4	292	46,945	21,047	67,992
5	291	41,812	8,271	50,083
6	290	44,279	29,874	74,153
7	294	35,409	14,885	50,294
8	294	31,536	16,804	48,340
9	291	29,730	8,205	37,935
10	293	32,209	15,433	47,642
11	296	20,652	9,832	30,484
12	299	19,258	7,786	27,044
13	225	17,901	10,259	28,160
14	301	19,487	8,805	28,292
15	302	18,641	8,535	27,176
16	302	18,117	12,790	30,907
17	303	15,008	7,232	22,240
18	311	16,084	7,116	23,200
19	311	19,676	9,795	29,471
20	307	14,908	9,416	24,324
21	295	19,374	13,993	33,367
22	307	21,085	17,983	39,068
23	311	17,280	8,371	25,651
24	311	24,660	4,641	29,301
25	53	3,377		3,377
計	6,854	672,799	335,909	1,008,708

平成25年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数	1日平均
4	26	1,225	47
5	27	2,152	80
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			
計	53	3,377	64

平成24年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数	1日平均
4	26	1,602	62
5	27	2,373	88
6	27	1,825	68
7	27	1,714	63
8	28	4,119	147
9	26	1,629	63
10	27	2,851	106
11	28	3,577	128
12	18	506	28
1	26	675	26
2	24	1,891	79
3	27	1,898	70
計	311	24,660	79

特設展観覧者数

年度	名称	会期	日数	観覧者数
H2	山梨と高浜虚子	H2.10.13~H2.11.18	33	8,785
H3	辻嵐外と嵐外十哲	H3.4.27~H3.6.2	33	8,998
	たけくらべの世界	H3.7.16~H3.8.25	36	10,378
	映画と文学	H3.10.22~H3.12.1	36	9,814
	文学者の扇面と年賀状子規がいて、漱石がいて、さうして…	H4.1.8~H4.2.2	22	2,327
H4	新収蔵資料より「近世の俳人 五味可都里と辻嵐外」	H4.4.8~H4.6.2	48	12,152
	佐野四郎の世界—富士見ゆる丘より	H4.6.3~H4.8.4	54	6,650
H5	やまなしの自然と文学	H5.6.19~H5.8.22	56	6,973
	五味可都里と蟹守の周辺	H5.8.24~H5.10.24	53	8,648
	芥川龍之介 草稿の世界	H5.10.30~H6.1.30	66	8,876
	野尻抱影 書簡の世界	H6.2.5~H6.4.10	51	5,519
H6	歌人の手紙	H7.3.4~H7.4.16	33	4,220
H7	やまなし文学賞の受賞者たち	H7.7.29~H7.9.17	44	3,756
	中村星湖への手紙	H7.12.2~H8.2.18	56	3,324
H8	『豹・レオパール』の詩人たち—宮田拙夫資料より—	H8.6.11~H8.7.7	24	1,861
	蛇笏山脈の人—西島養南・松村蒼石・榎本虎山—	H8.11.27~H9.2.16	57	3,629
H9	芥川龍之介の草稿	H9.7.19~H9.9.15	55	5,932
	村松定孝氏収集	H10.1.8~H10.2.15	32	1,274
H10	児童文学—山梨ゆかりの作家群—	H10.7.18~H10.9.13	50	3,778
	鳴山草平資料	H11.1.23~H11.2.21	23	757
H11	山岳関連名著展—百瀬舜太郎コレクションより—	H11.7.13~H11.8.29	41	4,202
H12	脚本家・菊島隆三と竹内勇太郎	H12.7.18~H12.8.27	34	2,019
	山梨の文芸誌—大正から昭和初期	H13.1.2~H13.2.18	42	1,068
H13	やまなしの児童文芸—「赤い鳥」「金の船/金の星」「童話」を中心に—	H13.7.17~H13.9.2	41	2,086
	山梨の文芸誌—戦後から現代まで—	H14.1.2~H14.2.17	41	1,121
H14	足立源一郎『日本の山旅』スケッチ画と山の文学	H14.6.18~H14.9.1	66	4,013
H15	山梨の農民文学	H15.7.19~H15.8.31	38	1,947
H16	山崎方代 歌と書の世界	H16.4.29~H16.5.30	27	2,862
H17	山梨のアララギ派歌人展「伊藤左千夫・三井甲之・神奈桃村・岡千里・日原無風を中心に」	H17.7.23~H17.8.31	34	1,393
H18	「赤毛のアン」の世界へ	H18.7.22~H18.8.27	33	4,138
H19	天空をめぐる物語 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	H19.7.21~H19.8.26	33	4,100
H20	すべての子どもたちへ 芥川龍之介「蜘蛛の糸」	H20.7.19~H20.8.24	32	2,909
H21	H・Gアンデルセン「人魚のお姫さま」—青い瞳の涙—	H21.7.18~H21.8.23	30	3,027
	収蔵名品展（常設展示室リニューアル工事中で常設展観覧料で観覧）	H21.12.2~H22.2.28	44	3,007
H22	くじらぐもからチックタックまで—国語教科書にのったお話し原画展—	H22.7.25~H22.8.29	31	10,495
H23	手紙を書こう 作家の手紙をお手本に	H23.7.23~H23.8.28	35	2,686
	樋口一葉 山梨への手紙	H23.11.19~H23.12.25	32	2,127
H24	フランダースの犬	H24.7.21~H24.8.26	33	5,034
	飯田蛇笏展	H24.9.29~H24.11.25	53	6,553
	文学館至宝展（富士の国やまなし国文祭共催事業）	H25.1.14~H25.3.17	54	3,490
H25	富士山と文学	H25.4.27~H25.7.7	63	2,405
	かいけつゾロリ展	H25.7.20~H25.8.25	33	

188,331

収蔵品展観覧者数

年度	名称	会期	日数	観覧者数
H4	新収蔵品展	H5.3.2~H5.3.24	20	2,831
H6	新収蔵品展	H6.7.23~H6.9.18	49	6,954
H7	新収蔵品展	H8.3.2~H8.3.17	15	1,059
H8	収蔵品展	H9.3.16~H9.4.13	24	2,865
H9	収蔵品展	H10.3.7~H10.4.12	32	12,432
H10	収蔵品展	H11.3.2~H11.3.22	19	870
H11	収蔵品展	H12.3.7~H12.4.2	24	1,093
H12	収蔵品展	H13.3.6~H13.4.1	23	1,044
H13	収蔵品展	H14.3.5~H14.3.31	23	859
H14	収蔵品展	H15.1.2~H15.3.30	75	2,879
H15	収蔵品展	H16.1.2~H16.3.28	74	10,980
H16	収蔵品展	H17.1.2~H17.3.27	72	2,369
H17	収蔵品展	H18.1.17~H17.3.26	60	2,273
H18	収蔵品展	H19.1.16~H19.3.25	60	1,834
H19	収蔵品展	H20.1.22~H20.3.30	60	2,667
H20	収蔵品展	H21.1.20~H21.3.29	59	2,313
H21	収蔵名品展（特設展示として）	H21.12.2~H22.2.28		
H22	収蔵品展	H23.1.19~H23.3.27	59	2,958
H23	収蔵品展	H24.2.2~H24.3.21	43	2,403
H25	新収蔵品展	H26.1.25~H26.3.23	50	

60,683

両展合計 249,014

平成24年度 企画展・特設展など(実績)

	展覧会名	会期	日数	観覧者数	内 容	備 考
1	企画展 石川啄木 愛と悲しみの歌	平成23年4月29日(金) ～6月19日(日)	52日間	4,641人	岩手県に生まれた歌人・詩人の石川啄木が、26年と2ヶ月の短い生涯を閉じて今年で百年を迎えます。文壇に認められない失意の生活の中で、貧苦と挫折を超えて、その心境を詠み込んだ三行書きの口語短歌は、現代も愛称される名作が多く、独自の鮮烈な詩情に溢れています。短くも激しい啄木の生涯と、作品の世界を顕彰すると共に、歿後百年を経た今なお読み継がれる魅力に迫りました。	自主企画
2	夏の特設展 フランダースの犬 愛と友情の物語	平成24年7月21日(土) ～8月26日(日)	33日間	5,034人	少年ネロと愛犬パトラッシュの深い絆を描いた「フランダースの犬」は140年前にイギリスで書かれたお話ですが、甲府市出身の児童文学者徳永寿美子や村岡花子も翻訳を手がけています。感動の名作を、物語の背景や挿絵を交えながら、わかりやすくご紹介し、夏休み中、親子で楽しんでいただきました。	自主企画 ・常設展の一環として開催
3	秋の特設展 歿後50年 飯田蛇笏展 くろがねの秋の風鈴鳴りにけり	平成24年9月29日(土) ～11月25日(日)	53日間	6,553人	東八代郡境川村(現笛吹市)に生まれ、大正から昭和にかけての近代俳句史に大きな足跡を残した飯田蛇笏が、亡くなって50年を迎えます。改めてその作品の魅力を振り返りました。	自主企画 ・常設展の一環として開催
4	富士の国やまなし国文祭共催事業 文学館至宝展 よみがえる文豪の素顔	平成25年1月14日(月) ～3月17日(日)	54日間	3,490人	1月に開幕した「富士の国やまなし国文祭」の共催事業として開催します。文学館がこれまで収蔵してきた資料の中の逸品を展示しました。	自主企画 ・常設展の一環として開催

平成25年度 企画展・特設展など(予定)

	展覧会名	会期	日数	内 容	備 考
1	富士の国やまなし国文祭記念事業 特設展 「富士山と文学」	4月27日(土) ～ 7月7日(日)	63日間	古くから日本人があこがれと畏敬の念を抱いてきた富士山。 万葉集のうたや太宰治の「富嶽百景」、草野心平の詩など、文学に描かれた様々な富士山を紹介します。 * 常設展の一環として開催	自主企画 ・常設展の一環として開催
2	特設展 「あそぶぜ! かいけつゾロリのおたのしみ大きくせん ～原ゆたかとゾロリのなかまたち」	7月20日(土) ～ 8月25日(日)	27日間	原ゆたかの児童書「かいけつゾロリ」は、1987年にポプラ社から発刊されて以来、子どもたちに大人気のシリーズです。 ゾロリの楽しい世界と作者原ゆたかを紹介し、夏休み期間中に子どもたちに本に親しみ、楽しんでもらう展覧会です。 * 常設展の一環として開催	自主企画 ・常設展の一環として開催
3	富士の国やまなし国文祭記念事業 企画展 「与謝野晶子展 われも黄金の釘一つ打つ」	9月28日(土) ～ 11月24日(日)	53日間	明治・大正・昭和を生きた情熱の歌人と謝野晶子(1878～1942)。 晶子は山梨とのゆかりも深く、夫の寛と共に上野原市や富士川町を訪れ、地元の人々と交流し、多くの歌を詠んでいます。 山梨での足跡とともに、短歌・評論・社会運動と、様々な分野に業績を残した晶子の華麗な生涯をたどります。	自主企画
4	新収蔵品展	平成26年 1月25日(土) ～ 3月23日(日)	49日間	平成25年度に新たに収蔵した資料を中心に、作家の原稿や書簡など貴重な直筆資料の数々を紹介します。 * 観覧料無料	自主企画

【平成24年度 教育事業について】平成25年3月末日現在

1. 企画展関連事業

(1) 春の企画展 平成24年5月20日(日)～6月24日(日)
「石川啄木 愛と悲しみの歌」

企画展関連事業

月日	事業名	演題	講師	参加者数
5/20 (日)	講演会	「啄木の詩について」	講師 中村稔(詩人・日本近代美術館名誉館長)	135人
6/3 (日)	文学講座	「我が愛誦」 文学講座「啄木の手紙 展示資料より」	近藤信行(当館館長) 中野和子(当館学芸員)	103人
6/23 (土)	講演会	「啄木の短歌」	佐佐木幸綱(歌人)	400人
6/7 (木)	教師のための学習会		中野和子(当館学芸員)	16人

2. 特設展関連事業

(2) 夏の特設展 平成24年7月21日(土)～8月26日(日)
「フランダースの犬 ～愛と友情の物語～」

月日	事業名	講師	参加者数
8/3 (金)	「消しゴムはんこで 犬のポストカードを作ろう」	高橋裕子(青少年ペンフレンドクラブアドバイザー)	50人

(3) 秋の特設展 平成24年9月29日(土)～11月25日(日)
「歿後50年 飯田蛇笏展 くろがねの秋の風鈴なりにけり」

月日	事業名	演題	講師	参加者数
9/30 (日)	講演会	「裏口に展がる世界」	宇多喜代子(俳人)	270人
10/7 (日)	鼎談	「飯田蛇笏を語る」	浅井一志(俳人) 和田知子(俳人) 廣瀬町子(俳人)	140人
10/4 (火)	教師のための学習会		高室有子(当館学芸員)	16人
11/1 (木)	「山廬を訪れた人々 —飯田蛇笏を巡る文人たち—」		高室有子(当館学芸員)	100人

3. 教育普及事業(企画展・特設展を除く)

(1) 年間文学講座

期間	事業名	演題	講師(職名)	参加者数
5/24 6/21 7/19 8/23 9/13 10/18 11/15 12/29	文学講座1(全8回) 研修室	テーマ「源氏物語を読む」 木曜日 14:00～15:30	池田尚隆 (山梨大学 教育人間科学部教授)	982人
5/12 6/16 7/7 8/11 9/8 10/13 11/17 12/22	文学講座2(全8回) 研修室	テーマ「『夏日漱石』再読 —〈近代的自我〉と人間関係論の視点から—」 土曜日 14:00～15:30	小菅健一 (山梨英和大学教授)	890人
6/14 7/12 9/20 11/1 12/6	文学講座3(全5回) 研修室	山梨の文学 木曜日 14:00～15:10	文学館職員	235人

(2) 名作映画鑑賞会

月日	題名	原作者	参加者数
5/27 (日)	「夫婦善哉」	原作 織田作之助 監督 豊田四郎	350人
6/24 (日)	「泥の河」	原作 宮本輝 監督 小栗康平	280人
7/22 (日)	アニメ「宗谷物語—南極への挑戦—」	共和教育映画社	160人
8/4 (土)	アニメ「ミッフィー 1」	(美術館ミッフィー展関連)	160人
8/11 (土)	アニメ「ミッフィー 2」	(美術館ミッフィー展関連)	130人
8/19 (日)	児童劇映画「少年の日の思い出」	ユーゴスラビア セントラルフィルム	50人
9/16 (日)	「愛染かつら」	原作 川口松太郎 監督 野村浩将	300人
10/21 (日)	「聖職の礎」	原作 新田次郎 監督 森谷司郎	210人
11/11 (日)	「雪国」	原作 川端康成 監督 豊田四郎	250人

(3) 朗読公演会

月日	事業名	演題	講師	参加者数
6/9 (土)	お話の森朗読会①		溝口朗読サークル	120人
8/25 (土)	お話の森朗読会②		椽の会	110人
11/23 (日)	朗読公演会「樋口一葉 恋の和歌」		センドー・オペラ・ミュージカル・カンパニー	220人

(4) 文学創作教室

月日	事業名	演題	講師	参加者数
7/1 (日)	「私の小さな本棚」		佐伯一麦 (小説家・やまなし文学賞選考委員)	91人
2/2 (土)	一般向け短歌教室 短歌教室「短歌について」		三枝浩樹 (歌人)	35人
2/15 (金)	高校生向け短歌教室 短歌教室「短歌について」		三枝浩樹 (歌人)	26人

(5) 子どもワークショップ

月日	事業名	講師	参加者数
7/14 (金)	昭和イオン四館夏休みコマーシャルイベント		100人
7/16 (金)	夏休みプロジェクト		300人
8/8 (水)	「知らざあ言ってきかせやしょう！歌舞伎体験ワークショップ」	市川喜昇 (市川猿翁一門)	55人
8/17 (金)	「大人も楽しめる！体験！狂言講座」	高野和憲 (万作の会)	58人
12/9 (土)	クリスマスお話し会	ステファノ・ヴィエロ	55人
1/5 (土)	百人一首教室	清水章子 (竜王かるた会会長)	45人

(6) 学習ガイド

県出身又はゆかりの文学者、作品についての学習資料集を作成し、小・中・高等学校、各市町村立図書館等に配付したり、文学教室で活用する。学習ガイドの増刷、楽しみながら展示を理解できるように、ワークシートや展示クイズを作成し活用する。

(7) ジュニアインターンシップ (職場体験学習)・学芸員実習

8/1～8/3 高校生2名・中学生4名
 8/2～8/3 高校生2名
 8/3 中学生2名
 8/8 中学生4名
 8/8～8/10 大学生2名
 8/17 中学生3名

(8) 文学解説

小学校 20校
 中学校 55校
 高等学校 24校
 大学 6校 (年間実施回数 105回 3,642人)
 一般 39団体 (667人)

講師派遣事業 (文学解説)

小学校 9校
 中学校 2校
 高等学校 2校
 大学校 1校 (小中高大 517人)
 一般 11団体 (一般 1600人)

(9) 講師派遣事業

小学校 10校
 中学校 2校
 高等学校 2校 (小中高大 478人)
 一般 29団 (一般1,600人)

(10) 石川啄木パネル貸し出し

小中高校 37校 (17,416人)

4. やまなし文学賞

本賞は、平成4年4月、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定された。山梨県の文学振興をはかり、日本の文化発展の一助として、小説と、研究・評論の2部門を設けている。

選考委員 小説部門 : 坂上 弘 津島佑子 佐伯一麦
 評論部門 : 菅野昭正 高田 衛 十川信介

応募数 小説部門 330編
 評論部門 121編

25年2月12日研究評論部門選考会 25日小説部門選考会
 3月13日表彰式
 6月小説部門受賞作単行本刊行

5. リーディングシアター2012 in 文学館

博学連携事業の一環として平成24年度からはじめた事業。

新しい教育課程全面実施の中で現在各学校が教科を超えて取り組む『言語活動の充実』の一助として、小中学校の日頃の学習の成果の発表の場を作り、児童生徒の学習の目的意識や相手意識の構築をサポートすることを目的とする。

児童生徒がお互いの発表を聴き合い、また、大人の方にも聴いてもらう交流の場をつくり、朗読の楽しさを味わい、更に読書への興味・関心・意欲を育てることにねらいとして企画する。

日時 : 平成24年12月8日(土) 1:30~

会場 : 文学館講堂

内容 : 小中学生の朗読発表・高校生の朗読発表

参加者 10校(13グループ) 250人

6. その他

文学散歩(委託事業)

企画実施 やまなし観光推進機構

委託先 NPO法人「つなぐ」

紅葉の河口湖畔文学散歩

10月20日(土)・28日(日) 80人

【平成25年度 教育事業について】平成25年5月末日現在

1. 企画展関連事業

(1) 特設展 「富士山と文学」

特設展関連事業

月日	事業名	演題	講師	参加者数
6/2 (日)	講演会	「文藝よもやまばなし」	講師 近藤信行 (前 文学館館長)	人
5/30 (木)	文学講座	「富士山を詠った詩歌」	高室有子 (当館学芸員)	96人
6/6 (木)	教師のための学習会		高室有子 (当館学芸員)	人

2. 特設展関連事業

(2) 夏の特設展 平成25年7月20日(土)～8月25日(日)

「かいけつゾロリのおたのしみ大さくせん～原ゆたかとゾロリのなかまたち」

(3) 企画展 平成25年9月28日(土)～11月24日(日)

「与謝野晶子展～われも黄金の釘一つ打つ～」

月日	事業名	演題	講師	参加者数
9/28 (土)	講演会	「 」	未定	人
10/10 (木)	教師のための学習会		保坂雅子 (当館学芸員)	
10/24 (木)	文学講座		保坂雅子 (当館学芸員)	
11/4 (月)	講演会	「 」	未定	人
11/14 (木)	講演会	「 」	未定	
11/23 (土)	講演会	「 」	未定	

3. 教育普及事業 (企画展・特設展を除く)

(1) 年間文学講座

期間	事業名	演題	講師 (職名)	参加者数
5/23 6/13 7/18 8/22 9/19 10/17 11/21 12/19	文学講座1 (全8回) 講堂	テーマ 「源氏物語の女君たち」 木曜日 14:00～15:30	池田尚隆 (山梨大学 教育人間科学部教授)	185人
5/11 6/8 7/6 8/3 9/7 10/19 11/16 12/14	文学講座2 (全8回) 研修室	テーマ「今、「村上春樹」を読むということ ～初期作品群群読～」 土曜日 14:00～15:30	小菅健一 (山梨英和大学教授)	140人
5/30 6/27 9/12 10/24	文学講座3 (全4回) 研修室	山梨の文学 木曜日 14:00～15:10	文学館職員	96人

(2) 名作映画鑑賞会

月日	題名	原作者	参加者数
5/26 (日)	「東海道四谷怪談」	原作 鶴屋南北 監督 中川信夫	140人
6/30 (日)	「静かなる決闘」	監督 黒澤明 出演 三船敏郎	人
7/28 (日)	アニメ「サイボーグ009」	原作 石ノ森章太郎 声の出演 太田博之	人
8/24 (土)	アニメ「かいけつゾロリ だ・だ・だ・大ぼうけん！」	原作 原ゆたか 声の出演 山寺宏一	人
9/29 (日)	「ビルマの豎琴」	原作 竹山道夫 監督 市川崑	人
10/27 (日)	「宗方姉妹」	原作 大佛次郎 監督 小津安二郎	人
11/24 (日)	「おふくろ」	原作 田中千禾夫 監督 久松静児	人

(3) 朗読公演会

月日	事業名	演題	講師	参加者数
6/1 (土)	お話の森朗読会①		溝口朗読サークル	人
8/8 (土)	お話の森朗読会②		椽の会	人
11/23 (日)	朗読公演会「ピノキオ」		こんにゃく座	人

(4) 文学創作教室

月日	事業名	演題	講師	参加者数
7/7 (日)	小節教室「読むことは書くこと、書くことは読むこと」		堀江敏幸（早稲田大学教授・作家）	人
12/18 (水)	高校生向け創作教室 エッセイ教室「エッセイはいかに書くか」		水木 亮（作家）	人
2/8 (土)	一般向け創作教室 エッセイ教室教室「 」		水木 亮（作家）	人

(5) 子どもワークショップ

月日	事業名	講師	参加者数
7/6 (土)	国文祭ウエルカムイベント ・活字ホルダーでゾロリの名刺作り ・ゾロリのエコバックを作ろう		
7/15 (月)	夏休みプロジェクト ・活字ホルダーでゾロリの名刺を作ろう ・ゾロリのエコバックをつくろう		人
7/31 (水)	「活版印刷体験！ゾロリのポストカードとマイノートを作ろう」	印刷博物館	
8/21 (水)	佐藤文香さんとあそぶ夏休み 俳句シャワーでパピル星人をたおせ！	佐藤文香（俳人）	
12/8 (日)	クリスマス会	ステファノ・ヴィエロ	人
1/ (土)	百人一首教室	清水章子 (竜王かるた会会長)	人

(6) 学習ガイド

県出身又はゆかりの文豪、作品についての学習資料集を作成し、小・中・高等学校、各市町村立図書館等に配付したり、文学教室で活用する。学習ガイドの増刷、楽しみながら展示を理解できるように、ワークシートや展示クイズを作成し活用する。

(7) ジュニアインターンシップ（職場体験学習）・学芸員実習

7/28～31 中央高校 2名
8/17～22 山梨大学 1名
山梨県立大学 2名
8/17～18 城南中学校 3名

(8) 文学教室・解説

小学校 0校
中学校 17校 (358人)
高等学校 1校 (124人)
大学校 0校 (小中高大 403人)
一般 9団体 (一般 11人)

(9) 講師派遣事業

小学校 2校 (115人)
中学校 校
高等学校 校 (小中高大 115人)
一般 団 (一般 人)

(10) 石川啄木パネル貸し出し
小中高校 3校 (440人)

(11) 各種団体への普及活動

5/2 甲府支部校長会 (30人)
5/7 高校校長会 (70人)
5/15 峡南地区校長会 (45人)
5/16 東山梨支部校長会 (35人)
5/23 北巨摩支部校長会 (30人)
6/11 笛吹支部校長会 (人)
6/13 中巨摩支部校長会 (人)
6/27 甲府地区学校司書部会 (人)

4. やまなし文学賞

本賞は、平成4年4月、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定された。山梨県の文学振興をはかり、日本の文化発展の一助として、小説と、研究・評論の2部門を設けている。

選考委員 小説部門 : 坂上 弘 津島佑子 佐伯一麦
評論部門 : 菅野昭正 高田 衛 十川信介

26年2月 日 研究評論部門選考会 日 小説部門選考会
3月 日 表彰式
6月 小説部門受賞作単行本刊行

5. リーディングシアター2013 in 文学館

新しい教育課程全面実施の中で現在各学校が教科を超えて取り組む『言語活動の充実』の一助として、小中学校の日頃の学習の成果の発表の場を作り、児童生徒の学習の目的意識や相手意識の構築をサポートすることを目的とする

児童生徒がお互いの発表を聴き合い、また、大人の方にも聴いてもらう交流の場をつくり、朗読の楽しさを味わい、更に読書への興味・関心・意欲を育てることにねらいとして企画する。

日時 : 平成25年12月15日(日) 1:30~
会場 : 文学館講堂
内容 : 小中学生の朗読発表・高校生の朗読発表

6. その他

文学散歩(委託事業)

企画実施 やまなし観光推進機構

委託先 NPO法人「 」

紅葉の河口湖畔文学散歩

平成25年10月20日(日)・26日(土) 人

過去5年間教育普及事業 実施状況(H24. 3月末まで)

一般対象		H19	H20	H21	H22	H23	H24	小中高生対象		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
企画展関連 講演会・講座	回数	8	9	14	11	8	6	子ども映画鑑賞会	回数	2	2	2	2	2	3	4
	人数	828	1,534	2,197	1,076	1,445	1,015		人数	377	303	349	241	366	373	500
	平均人数	104	171	157	98	181	170		平均人数	189	152	175	121	183	125	125
企画展 ギャラリートーク	回数	30	47	53	49	31	40	子どもワークショップ (朗読教室・詩作教室・俳句教室・他)	回数	5	2	1	1	2	7	3
	人数	359	740	1,178	900	553	500		人数	78	44	35	30	110	528	163
	平均人数	12	16	23	19	18	13		平均人数	16	22	35	30	55	76	55
年間文学講座Ⅰ・Ⅱ 古典文学・近代文学	回数	16	16	16	16	16	16	お話の森朗読会	回数	4	3	3	3	3	2	2
	人数	1,311	1,252	1,332	1,441	1,802	1,872		人数	226	180	153	201	156	261	230
	平均人数	82	79	84	91	113	117		平均人数	57	60	51	67	52	131	115
年間文学講座Ⅲ (館職員による)	回数	6	6	6	3	3	5	小・中・高等学校・大学 展示観覧・解説	回数	38	31	31	44	68	66	105
	人数	302	312	375	158	169	235		人数	1,279	1,790	994	2,243	3,226	1,686	3,464
	平均人数	51	52	63	53	57	47	小・中・高等学校 講師派遣事業	回数	8	7	3	8	5	12	14
朗読講演会	回数	2	1	1	1	1	1	人数	447	720	190	810	1,109	1,107	517	
	人数	592	230	500	225	400	220									
	平均人数	296	230	500	225	400	220	小中高生・一般対象		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
映画鑑賞会	回数	6	6	5	6	8	4	創作プログラム (俳句短歌等教室・百人一首教室)	回数				3	4	2	2
	人数	1,338	1,390	1,203	1,941	3,178	1,390		人数				94	169	190	117
	平均人数	223	232	241	324	398	348		平均人数				32	43	95	59
文学散歩	回数	2	2	2	2	2	2	チャレンジ文学館 (夏休みチャレンジ文学館)	小中高					2,361	1,711	3,737
	人数	89	89	86	76	82	85		大人					60	23	33
	平均人数	45	45	43	38	41	43		合計	307	652	773	851	2,421	1,734	3,770
読書会	回数	10	10	10	10	9	11									
	人数	120	113	103	119	99	149	学校対象		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	平均人数	12	12	11	12	11	14	移動文学館 (パネル貸し出し)	回数						14	37
一般団体 展示解説 文学解説	回数	62	43	49	24	28	39		人数						7,981	17,416
	人数	5,329	895	723	389	767	667		平均人数						571	471
一般団体 山梨の文学 講師派遣事業	回数	10	16	17	20	18	29									
	人数	902	597	765	1,593	934	1,600									

過去5年間 教育課程による入館者数(県内)

		H18	H19	H20	H21	H22	H23	平成24年度												
								合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	学校数	2	1	1	12	17	14	18			2	1			3	5	3		2	2
	人数	78	55	53	503	730	594	696			78	40			156	202	47		68	105
中学校	学校数	28	16	17	17	30	37	52	6	24		2	9		2	3	6			
	人数	561	324	327	418	1,217	737	905	82	593		20	54		22	94	40			
高校	学校数	8	8	6	8	10	28	20		2			5	2	6	2	1			2
	人数	640	690	409	727	469	530	1,360		147			46	604	42	470	4			47
大学 特別支援	学校数	4	0	3	7	6	7	4	2	1	1									
	人数	279	0	41	595	298	84	268	233	15	20									
合計	学校数	42	25	27	44	63	86	52	8	24	2	3	14	1						
	人数	1,558	1,069	830	2,243	2,714	1,945	1,167	238	437	83	66	85	258						

平成24年度 閲覧室事業実施状況

◇閲覧室資料紹介

所蔵資料を紹介・展示することにより、利用者が直接手に取って利用できる資料を増やし、開かれた文学館のイメージの定着と閲覧室の活性化を図る。

また、閲覧室の機能の理解と利用促進および資料収集の推進を図ることを目的とする。

展示名及び概要	展示期間
石川啄木の世界 石川啄木（1886－1912）は岩手県に生まれ、26歳2ヶ月で短い生涯を閉じ、今年が歿後100年にあたる。『一握の砂』『悲しき玩具』などの詩情あふれる作品は今も親しまれている。春の企画展にあわせて、啄木の作品や関連資料を紹介する。	平成24年4月27日（金） ～ 6月24日（日）
みんなで読もう世界の名作 「赤毛のアン」や「小公子」「小公女」、アンデルセンの童話など、よく知られている世界の名作は、童話や絵本となって今も読み継がれている。特設展にあわせ、子ども向けの世界の名作とその関連資料を紹介する。	平成24年7月21日（土） ～ 8月26日（日）
飯田蛇笏－歿後50年－ 俳句雑誌「雲母」を主宰し、大正・昭和期に活躍した俳人・飯田蛇笏。現在の笛吹市境川町に生まれ、居所を「山廬」と呼び、生涯のほとんどをこの地で過ごした。特設展にあわせ、飯田蛇笏の作品や関連資料を紹介する。	平成24年9月29日（土） ～ 11月25日（日）
やまなし文学散歩 山梨に生まれ育ち、あるいは山梨の地に親しんだ文学者たちは、山梨を舞台とした文学作品をさまざまに生み出している。平成25年、国民文化祭が山梨県で開催されることにちなみ、山梨の文学に関わる作品や関連資料を紹介する。	平成25年1月14日（月） ～ 4月14日（日）

◇文学者の誕生日にちなんだ資料紹介

本県出身・ゆかりの文学者を身近に感じてもらうことを目的として、資料を紹介する。

展 示 名	展 示 期 間
木々高太郎（5／6生）	平成24年4月20日（金）～5月11日（金）
太宰治（6／19生）	平成24年6月6日（水）～6月27日（水）
飯田龍太（7／10生）	平成24年7月4日（水）～7月25日（水）
辻邦生（9／24生）	平成24年9月12日（水）～10月3日（水）
山崎方代（11／1生）	平成24年10月24日（水）～11月14日（水）
檀一雄（2／3生）	平成25年1月23日（水）～2月13日（水）
芥川龍之介（3／1生）	平成25年2月20日（水）～3月13日（水）

◇書庫見学

職員が書庫内を案内し、収蔵資料、保管状況などを解説し、文学館の役割、閲覧室の利用方法の周知を図る。

第1回 平成24年 6月16日（土） 参加者 41名

第2回 同 11月20日（火）県民の日 参加者 71名

午前・午後各1回

内容：書庫見学、画像情報システム端末・文献検索システム端末操作説明など

平成25年度 閲覧室事業

◇閲覧室資料紹介

所蔵資料を紹介・展示することにより、利用者が直接手に取って利用できる資料を増やし、開かれた文学館のイメージの定着と閲覧室の活性化を図る。

また、閲覧室の機能の理解と利用促進および資料収集の推進を図ることを目的とする。

展示名及び概要	展示期間
富士をめぐる文学 富士山は日本の象徴として世界にも広く知られ、魅了された人々は様々な形で富士を描いた。特設展「富士山と文学展」にあわせ、富士に魅せられた文学者の作品の数々を紹介する。	平成25年4月27日(土) ～ 7月7日(日)
ぼくのヒーローわたしのヒーロー 時代を越えて、多くの人々に親しまれてきた名作の中のヒーローたち。魅力的な主人公が活躍する物語は、私たちの胸をわくわくさせる。児童文学作品など、登場するヒーローたちを紹介する。	平成25年7月20日(土) ～ 8月25日(日)
与謝野晶子の世界 与謝野晶子は、歌人、古典文学研究者、教育者、そして女性の自立の推進者として活躍し、山梨にもたびたび足を運んだ。秋の企画展「与謝野晶子展」にあわせ、歿後70年を経た晶子の、新たな魅力をさぐる。	平成25年9月27日(金) ～ 11月24日(日)
装幀の美 表紙や扉の絵、タイトルの文字、カバーや箱など、1冊の本には、様々な意匠が施される。著名な画家や思いがけない作家が手掛けたものなど、作品とともに見る人を魅了する装幀の数々を紹介する。	平成26年2月1日(土) ～ 4月13日(日)

◇文学者の誕生日にちなんだ資料紹介

本県出身・ゆかりの文学者を身近に感じてもらうことを目的として、資料を紹介する。

展 示 名	展 示 期 間
飯田蛇笏(4/26生)	平成25年4月12日(金)～4月30日(火)
樋口一葉(新暦5/2生)	平成25年5月2日(木)～5月23日(木)
太宰治(6/19生)	平成25年6月5日(水)～6月26日(水)
飯田龍太(7/10生)	平成25年7月3日(水)～7月24日(水)
辻邦生(9/24生)	平成25年9月6日(金)～9月27日(金)
山崎方代(11/1生)	平成25年10月30日(水)～11月20日(水)
芥川龍之介(3/1生)	平成26年2月19日(水)～3月12日(水)

◇書庫見学

職員が書庫内を案内し、収蔵資料、保管状況などを解説し、文学館の役割、閲覧室の利用方法の周知を図る。

第1回 平成25年 6月15日(土) 参加者 27名

第2回 同 11月20日(水) 県民の日

午前・午後各1回

内容：書庫見学、画像情報システム端末・文献検索システム端末操作説明など

【閲覧室利用統計】

閲覧室利用状況(内訳)

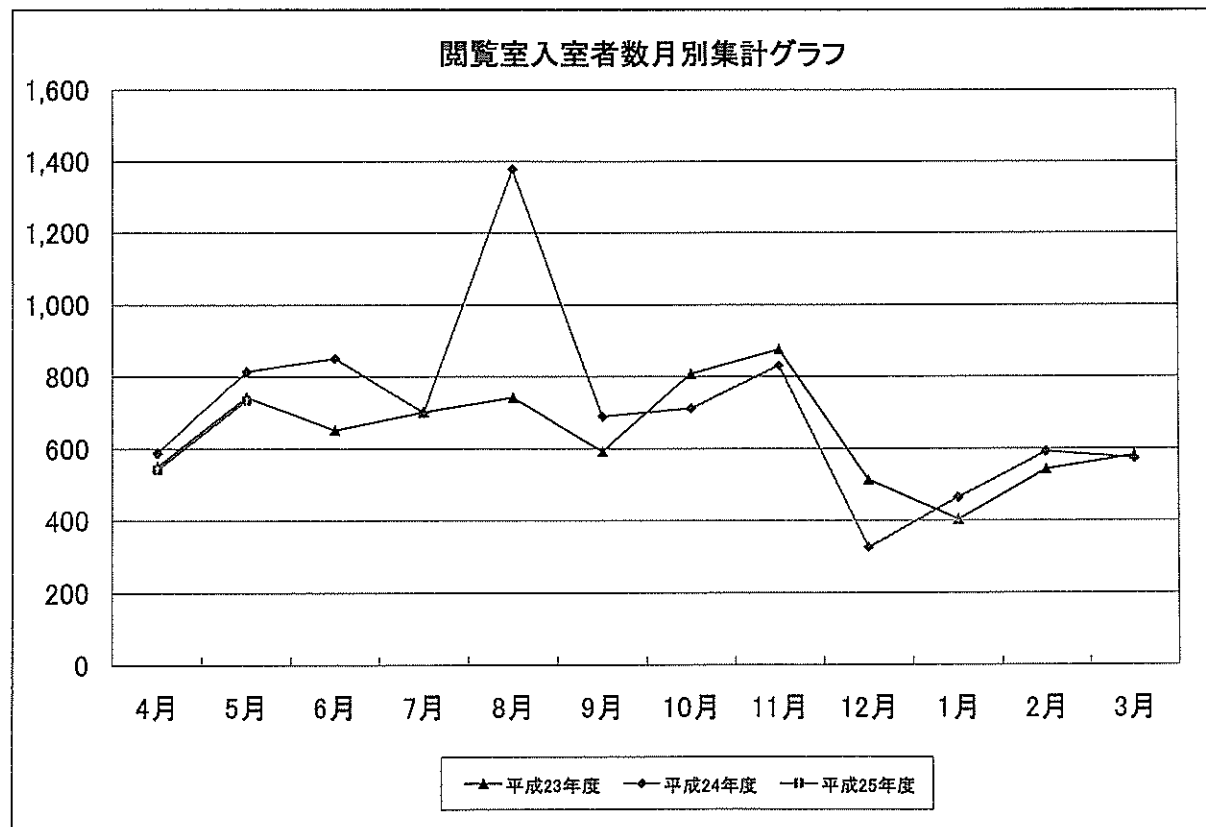
(H25.5.31現在)

	開館 日数	入室者 数	加算カード 発行数	閲覧者 数	閲覧冊 数	調査 相談	電子式 複写枚数	マイクロ 複写枚数	画像検索 回数	資料紹介 冊数	HPアクセ ス件数
平成23年度	310	7,712	99	414	2,511	361	7,001	258	890	636	35,346
平成24年度	310	8,524	105	415	2,149	285	5,211	283	823	544	36,889
平成25年度	53	1,277	16	85	716	51	1,534	2	159	118	5,862

閲覧室入室者(月別)

単位:人 (H25.5.31現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均入室者数
平成23年度	552	743	652	701	742	593	808	876	514	404	544	583	7,712	25
平成24年度	589	814	851	700	1,379	689	712	831	326	465	593	575	8,524	27
平成25年度	543	734											1,277	24



調査相談(口頭・電話・手紙・FAX・メール)(月別)

単位:件 (H25.5.31現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均件数
平成23年度	37	38	26	27	37	28	40	45	21	12	26	24	361	1.2
平成24年度	15	26	33	28	38	22	31	30	10	15	14	23	285	1
平成25年度	19	32											51	1

複写枚数(電子式・マイクロ)(月別)

単位:枚 (H25.5.31現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均枚数
平成23年度	353	1,015	742	181	747	462	523	989	1,244	169	374	460	7,259	23
平成24年度	951	343	408	407	526	351	705	557	229	227	392	398	5,494	18
平成25年度	1,159	377											1,536	29

ホームページアクセス件数(月別)

単位:件 (H25.5.31現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均アクセス件数
平成23年度	2,736	2,929	2,797	3,038	3,399	3,056	3,445	3,001	1,986	2,484	3,425	3,050	35,346	97
平成24年度	2,938	3,240	3,048	3,057	3,230	2,904	3,383	3,566	1,995	2,795	3,797	2,936	36,889	101
平成25年度	2,774	3,088											5,862	96

指定管理者活動トピックス ～平成25年1月以降～
【1-1】来館者獲得に向けて

「文学館・芸術の森公園」のPR

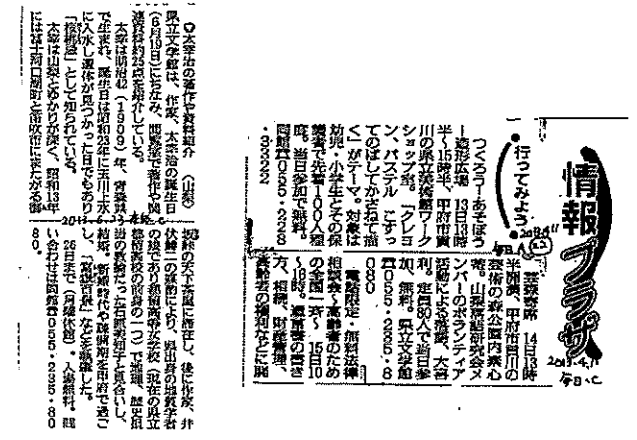
指定管理者による広報展開、学芸員による新聞連載等、職員全体で施設をPR



●新聞での記事化等、無料媒体を効果的に活用して広報展開

リリース配信の強化

展覧会以外に学芸課・教育普及・資料情報課が進める事業等においてもきめ細かいリリース配信を実施。多くの記事化を獲得している。



●展覧会に留まらず、施設の活動を幅広く発信することで賑わいを創出 1

指定管理者活動トピックス ～平成25年1月以降～
【1-3】来館者獲得に向けて

富士山世界遺産登録に向けた関連イベント

富士山世界遺産登録へ向け企画された特設展「富士山と文学」その会期中に登録勧告を受けたことから、登録に向けた気運を高めると共に特設展を盛り上げる目的で記念ゲートを設置し、地元中学生を招き除幕式を実施した。

まずは「青」、登録の際は「赤」に取り換え

県立文学館に富士山あしらったゲート

富士山と共に特設展の取材も獲得



登録の正式決定後は「祝世界遺産登録」とゲートのデザインを刷新して設置



3

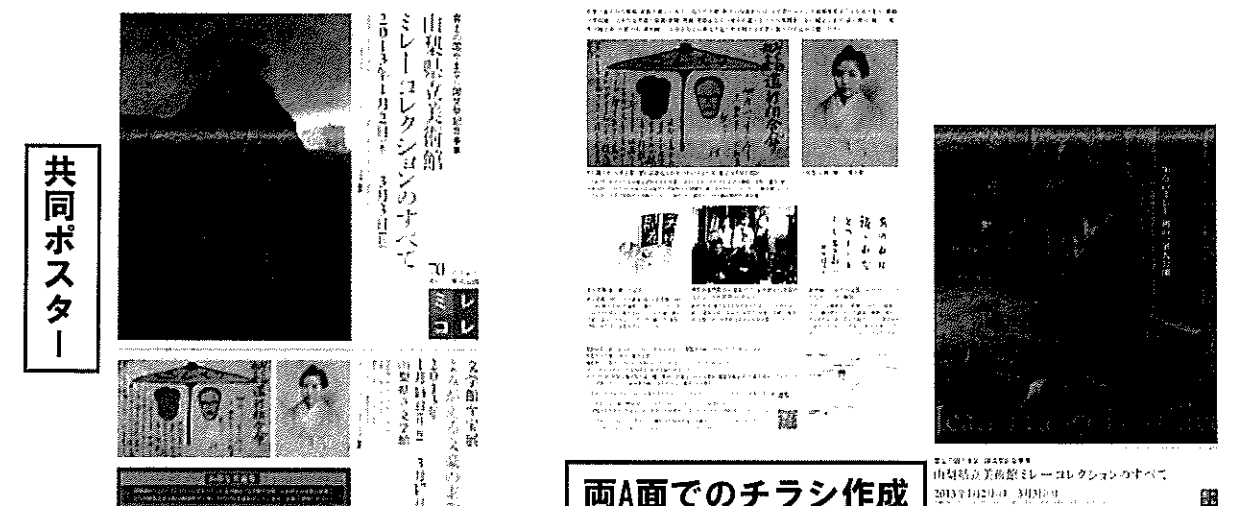
指定管理者活動トピックス ～平成25年1月以降～
【1-2】来館者獲得に向けて

美術館との連携

国民文化祭記念事業である文学館「至宝展」と美術館「ミレーコレクションのすべて」を同時に観覧いただけるよう、はじめて両館共同のチラシ・ポスターを作成。両館共通券の販売も好調に推移し（前年同時期比217%）、両展覧会の集客増に貢献

共同ポスター

両A面でのチラシ作成



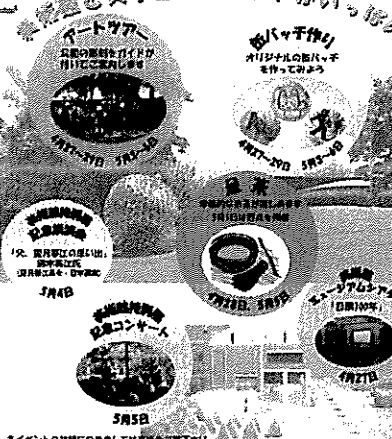
2

指定管理者活動トピックス ～平成24年度下半期以降～
【2-1】賑わいの創出

自主企画事業

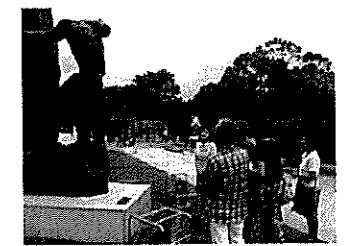
GWイベント (4/27～5/6)

ゴールデンウィークは
芸術の森公園へ




GW期間中に実施した呈茶は初の野点にて開催。開始から約1時間で150名の定員に達し、急遽50名分追加したものの、約30分で終了！お客様からも好評で、予想以上の賑わいを創出！

アートツアー (4/27～6/30)



施設の賑わいを創出すると共に、来館のきっかけとしてもらう
⇒リリースの配信等により、取材を獲得し前後の集客に繋げる

4

指定管理者活動トピックス ～平成25年1月以降～
【2-2】賑わいの創出

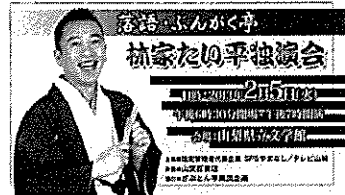
自主事業「落語ぶんがく亭」

- ・山梨県立文学館の認知度を高める活動の一環として、文学と馴染み深い落語を「落語ぶんがく亭」と称し実施
- ・文学と落語の繋がりを県民に定着させ、文学館の広報に繋げていくためシリーズ化

第4回落語ぶんがく亭 2/5「林家たい平独演会」

第5回落語ぶんがく亭 5/9「桃月庵白酒独演会」

※地元企業のテレビ山梨との共催。協力や協賛にも地元企業を迎え、地域と密着した活動



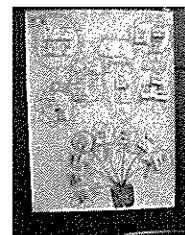
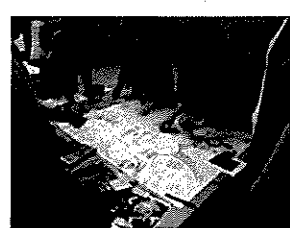
5

指定管理者活動トピックス ～平成24年度1月以降～
【3】ホスピタリティデザインへ向け

- 「監視のプロ集団になる」を目標に掲げ、「対話力」「寄り添い力」をコンセプトに研修
- 4/23 ワールドカフェ「印象に残ったサービスは?」、避難訓練
 - 7/9 文学館書庫見学、お客様対応ロールプレイング
 - 10/9 グループディスカッション「半期を振り返って」
 - 12/10 国民文化祭に向けての勉強会、他施設視察
 - 3/25 作家勉強会、「価値観ワーク」
 - 4/22 平成24年度活動報告及び平成25年度事業計画説明、文学館施設勉強会

※3月のスタッフ研修の取り組み

年間目標に掲げてきた「監視のプロ集団になる」の総まとめ研修。午前には経験年数による知識差を埋めるべく山梨の代表作家に関する勉強会を実施。午後は「価値観(すごいところ)ワーク」を実施。ハード・ソフト面に対する個々の「すごい!」を共有する事で更なるロイヤリティ醸成に繋げる事が出来、次年度へのチームワーク向上の機会となった。



- 「サービス向上」⇒「ホスピタリティデザイン」へ

6

指定管理者活動トピックス ～平成25年度～
【4】施設の維持管理

①光熱費節減対策

- 節電への継続した取り組み
事務室の空調管理の徹底・蛍光灯の間引き・池の水入れ中止
- 灯油の新規取引先開拓
現在4社で実施している見積り合せを、5社での見積り合せにすることで灯油単価を抑制

②喫茶室の衛生管理

- サントリーグループのノウハウを活用した衛生管理検査等、共同事業体一丸となって安心安全な運営を実施

③植栽管理

- 近隣住民からの要望にこたえ、指定管理職員と設備担当で剪定作業を実施。定期作業でカバーできない範囲にも対応

7

指定管理者活動トピックス ～平成25年度～
【5】今後の活動予定

●特設展「かいけつゾロリ展」関連イベント

地元書店組合と協働しゾロリ展の塗り絵を募集。集まった作品は2階ロビーで展示。書店組合で特設コーナーの設置も同時に実施

●企画展「与謝野晶子展」記念短歌大会の開催

地元書店組合と協働して短歌大会を開催。

企画展の開催を盛り上げ短歌の魅力に触れていただく機会とする

●文学館イベント

「落語ぶんがく亭」「呈茶」「寄席」の開催

●無料シャトルバスの運行

秋の行楽シーズンにあわせ、9～11月の日曜日、11月20日(県民の日)にシャトルバスを運行



8

○ やまなし文学賞について

平成26年度前期 連続テレビ小説

花子とアン

原案・村岡恵理「アンのゆりかご 村岡花子の生涯」

脚本・中園ミホ

連続テレビ小説・第90作『花子とアン』は
「赤毛のアン」の翻訳者・村岡花子の
明治・大正・昭和にわたる、波乱万丈の半生記です。

山梨の貧しい家に生まれ、東京の女学校で英語を学び、
故郷での教師生活をへて翻訳家の道へ進んだヒロイン・花子は、
震災や戦争を乗り越え、子供たちに夢と希望を送り届けていきます。
戦後、日本中の若い女性たちの心をつかんだ「赤毛のアン」は、
花子にとって生きて証ともいえる作品でした。

アンのように、明日を信じ、夢見る力を信じて生きた花子。
その波乱万丈の半生を描き、お茶の間に、夢と希望をお届けします！

ドラマの見どころ

夢見る力を持ったヒロイン

花子は、ひとり想像の世界に遊ぶことが好きな少女でした。つらいとき、悲しいときも、夢見る力(想像力)を支えに乗りこえていきます。それはやがて、夢と希望にみちた物語を人々に届けたいという願いとなり、翻訳家として、児童文学者として多くの名作を送り出します。そして花子は、「赤毛のアン」との運命的な出会いを果たします。

激動期を生きた家族の物語

花子は明治26年、山梨・甲府に生まれます。夢追い人の父は、花子に大きな期待をかけ、東京の女学校に編入させます。女性の社会進出など思いもよらない母は、別れの寂しさに耐え、新しい世界に花子を送り出します。卒業した花子は、母を助けるため教師として故郷の学校に赴任します。やがて東京に戻った花子は、大正12年の関東大震災で築き上げたものすべてを失いながら、夫と二人三脚で再生への道を歩みます。

女性たちの友情の物語

苦難の連続だった花子の人生を支えたのは、女学校時代に出会った「生涯の友」との友情でした。「生涯の友」は華族の娘で、一度結婚に失敗したあと女学校に。生まれも育ちも全く違う二人は強くひかれあいます。その後、再婚し、さらに新しい恋愛に生きようとする彼女を、花子も励まし続けます。女性の自由が制限されていた時代、自分らしく生きようと、しなやかに、たくましく、個性的に生きた女性たちの友情を描きます。

執筆にあたって

中園ミホ

「曲がり角をまがったときになにがあるのかは、わからないの。でも、きっといちばんよいものにちがいないと思うの」

逆境でそう言い放つ<アン>の強さとしなやかさは、村岡花子の人生そのものです。

お孫さんの村岡恵理さんが書かれた「アンゆりかご」を読むまで、私は村岡花子という女性を誤解していました。明治の時代にハイカラなミッションスクールで英語を学び、戦後、「赤毛のアン」を日本に紹介した翻訳家ですから、裕福な家庭に育ったインテリのお嬢様だとばかり思っていました。全くそうではなかったのです。

「華族のお嬢様なんかに負けるな。しっかり精進して見返してやるんだ」と父親に鼓舞され、ハングリーな給費生として女学校の寄宿舎に入った花子は、ものすごい勉強量と努力で、そこから自分の人生を切り開きました。そして、将来の夫となる男性との激しいラブレターのやり取り……。それを読んだ時、私は心に決めました。朝ドラを書くなら、ぜひ花子をモデルにしよう。逆境から自分の足で立ち上がり、ひたむきに幸福を追いかける一人の女性の息吹が伝わってきたからです。

花子の生涯を通じて「腹心の友」となるのは、女学校で出会った華族の娘。花子より八歳年上で、育った環境も性格もまるで違いますが、彼女たちに共通するのは、決して完璧な女性ではないということです。ある時は過ちをおかし、道ならぬ恋に突き進んでしまう瞬間もあります。

逆境のなかを必死に駆け抜けながら、曲がり角だらけの人生をタフに生きていく花子、そして彼女とどこか似ている<アン>に、脚本家は恋をしてしまったようです。

主演の吉高由里子さんは、ずっとご一緒したいと思っていた憧れの女優さんです。彼女の演じる花子に日本中のみなさんが恋をして、毎朝ときめいていただけたら、こんなに幸せなことはありません。長丁場の朝ドラは私にとっても大きな挑戦ですが、「曲がり角があるから、人は成長できる」というモンゴメリのメッセージを信じて頑張ります。

中園ミホ (なかその みほ)

東京生まれ。日本大学芸術学部卒業後、広告代理店勤務、コピーライター、占い師の職業をへて、1988年にテレビドラマ「ニュータウン仮分署」で脚本家としてデビュー。その後も「不機嫌な果実」「やまとなでこ」「ane go」「ナサケの女〜国税局査察官〜」「下流の宴」など、テレビドラマを中心に数多くの作品を執筆する。2007年に「ハケンの品格」で放送文化基金賞と橋田賞を受賞。今年「はつ恋」「Doctor-X 外科医・大門未知子」で向田邦子賞と橋田賞を受賞。徹底した取材を通じてのリアルな人物描写には定評があり、特に女性の本音に迫るセリフは多くの視聴者から共感を得ている。



ヒロイン決定

村岡花子役

よしたか ゆりこ
吉高由里子

1988年、東京生まれ。2004年デビュー。2006年「紀子の食卓」で第28回ヨコハマ映画祭・最優秀新人賞を受賞。2008年「蛇にピアス」で第32回日本アカデミー賞・新人俳優賞など数々の賞を受賞。他に「きみの友だち」「婚前特急」「僕等がいた」などの映画に出演。テレビドラマでは「東京DOGS」「美丘-君がいた日々-」「私が恋愛できない理由」などに出演、幅広い役柄を演じている。今年は映画「横道世之介」でお嬢様育ちのヒロインを、ドラマ「ガリレオ」では強気な新人刑事を演じ、きわだった存在感を発揮している。今、最も期待される女優である。



制作にあたって

チーフ・プロデューサー 加賀田 透

「アンのかげ」を読むと、「赤毛のアン」を翻訳した村岡花子には、不思議にアンとの共通点が多いことに気づきます。花子自身も、翻訳を続けながら自分の歩んできた道を振り返ったのだらうと想像されます。カナダの村の何気ない風景に「歓喜の白路」「輝く湖水」と名づけたアンのように、花子もまた、想像力が人生を豊かにすることを学ぶ少女でした。女学校ではカナダ人教師の指導を受け、英語や欧米の文化に親しんでいった花子。しかし、アンにやがて第一次大戦の暗い影がさすように、花子の人生にも次々に困難が襲います。それでも花子は、翻訳という仕事を通して夢を、希望を送り届けたいと願っていたのです。そして出会ったアン。花子の人生は、アンに出会うための旅だったのかもしれない。そんな思いを「花子とアン」というタイトルにこめました。

脚本の中園ミホさんは、現代を生きる女性の本音をあざやかに描く名手です。このドラマでは、女性の自己実現がさらに困難だった明治・大正・昭和を舞台に、花子をはじめとする女性たちの「仕事と恋と友情」に生きる姿を、共感をこめて描いてくれることでしょう。

そしてヒロイン・花子を演じるのは吉高由里子さんです。吉高さんは、作品ごとに違う顔を見せ、しなやかで、無限の広がりを感じさせる女優さんです。激動の時代の中で、夢見る少女から、夢を送り届ける人へと成長をとげていく花子をどう演じてくれるのか、とても楽しみです。

「曲がり角をまがったさきになにかあるのかは、わからないの」この印象的な一節を訳していた花子は、戦争のさなかにあって、それでも曲がり角の先を信じようとしていたのではないのでしょうか。曲がり角の先に、花子はどんな未来を想像していたのでしょうか。今、先の見えない曲がり角に立つ日本に、夢と希望をもたらすドラマにしたいと思っています。どうぞご期待ください。

物語

太平洋戦争中。50歳になる花子は、空襲警報が鳴る中、カナダの女性作家・モンゴメリが書いた小説「アン・オブ・グリーン・ゲイブルズ」の翻訳に打ち込んでいた。出版のあてもないまま翻訳を続けるうち、花子はいつしか、主人公の少女・アンに、自分の歩んできた人生を重ね合わせる。10歳で親元を離れたときの心細さ。生涯の友との出会いと幸福な日々。花子はそれらをあざやかに思い出すのだった……。

山梨の貧しい家に生まれた花子は、明治36年、10歳のとき、花子にだけは高等教育を受けさせたいという父の強い希望で、東京のミッション系の女学校に編入し、寄宿舎で生活を始める。「いいか、華族の娘なんかには負けるな。」華族や富豪の娘たちが学ぶ女学校の雰囲気になじめない花子。教師たちの話す英語も全く理解できず、先輩や同級生たちの話す言葉にもカルチャーショックを受けるが、家庭をかえりみない父に代わって母や弟妹の生活を支えるため、しっかり勉強して身を立てることを心に決める。

欧米文学との出会い。淡い初恋。そして生涯の友との友情を育んだ女学校での10年間は、花子にとってかけがえのない青春時代となった。卒業後、花子は教師として故郷・山梨に赴任。生徒たちを教えながら書いた本が出版されたのをきっかけに東京へ戻り、出版社で働き始める。時代は大正から昭和へ。許されぬ恋に苦しみ、やがて結婚した花子は、関東大震災や戦争を乗り越え、翻訳家という夢を実現させていく。戦争中、危険をかえりみず翻訳を続けた「アン・オブ・グリーン・ゲイブルズ」が「赤毛のアン」として結実するのは、終戦から7年後のことだった。

放送予定

2014年3月31日(月)～9月27日(土) 全156回(予定)

<制作スケジュール>

2013年11月クランクイン(予定)

<スタッフ>

制作統括：加賀田透

演出：柳川強 松浦善之助 ほか

◆お問い合わせ/番組広報：岡田知子 TEL 03-3465-1111

信頼、見てたえ、公共放送。

県立美術館、文学館及び芸術の森公園
に係る指定管理について

○ 指定管理募集の概要

対象施設：美術館、文学館及び芸術の森公園

対象業務：管理部門のみ（学芸部門は直営）

- 貸館業務
- 使用料及び観覧料の収納・管理業務
- 総合案内及び展覧会受付・監視業務
- 広報・利用促進業務
- 施設・設備の維持管理業務
- レストラン等飲食提供施設の運営業務など

契約期間：平成26年4月1日～平成31年3月31日 5年間（予定）

県議会議決後確定

◇ 指定管理制度導入と満足度の推移（十分との回答の割合）

	H20	H21	H22	H23
サービスの内容	72.7	78.4	82.5	81.7
施設設備の整備状況	80.4	84.1	87.6	88.0

指定管理者選定スケジュール

時 期			項 目
25年度	6月	～8月19日(月)	募集要項の配付
	7月	～8月9日(金)	募集要項等に係る質問の受付・回答
	8月	12日(月) ～20日(火)	申請書類の受付
		～30日(金)	一次(資格要件等)審査及び結果通知
	9月	～10月上旬	二次(選定委員による書類審査及びヒアリング)審査及び選定結果通知
	10月	上旬 ～中旬	選定団体との協議
	12月	下旬	12月県議会において指定管理者の指定等の議決
	1月	上旬	基本協定書締結
26年度	4月	1日(火)	指定管理者による業務開始